



第39号

(年4回発行)

編集発行

弘前学院大学
前報委員会

印刷所
(有)小野印刷所

絵画と聖書

学長 吉岡 利忠



聖愛中学校・高等学校を加え中高大・大学院として一貫の教育を行っています。

2010(平成22)年4月3日(土)に開催された入学式における式辞の一部を掲載します。

弘前学院大学は、3学部、4学科2大学院研究科を擁し、教育の背景にはキリスト教の精神が流れており、北東北にあつては、これに基づいた教育が120年以上の歴史を刻み、同時に伝統を積み重ねている大学です。また、弘前学院

弘前学院大学の建学の精神は、「畏神愛人」です。すなわち、神に対して敬(うやまう)心を持ち、全ての人を愛する、という精神です。毎週、木曜日の午前には礼拝があります。礼拝堂で100年以上前に作られたステンドグラスが輝き、古いパイプオルガンが響き、ハンドベルの奏でるなかで礼拝が行われます。新入生を含め在校生の皆さんはこの礼拝に参加します。教職員も出席しております。毎回の礼拝では、宗教主任、青森県内の牧師さん、理事長、教

員、学長の私もそうですが、聖書の話し、心に感じた出来事、教育論、人生論、体験談など貴重な話しを聞けます。また、授業では、キリスト教神学の初歩を教わることとなります。若いうちにキリスト教の常識を学ぶことは、西洋の学問・歴史のみならず生命科学分野の学問を学ぶ上でいかに大切であるかを知ることになります。多くの先輩は、聖書こそこの世で最も崇高な書であると挙げています。その中には汲めども尽きせぬ知恵の宝庫が詰まっているとも言います。私も、聖書を読む。しかし、読みながらその時々の状況を頭の中で構成することがなかなか難しい。スジの通った物語りですが、その情景を把握することも容易ではありません。ここで、私が聖書を楽しむ一

つの方法を皆さんに教えましょう。皆さんは、高校で使った教科書参考書、あるいは色々な書籍の中で、さまざまな西洋絵画や日本絵画などと対面し、学んできたと思います。日本(邦)画も仏教の影響を受けたものも多いですが、なんと西洋絵画の四分の三はキリスト(宗)教を背景にした絵画なのです。聖書や聖人の物語を題材にしています。絵画は視覚から入り脳にしっかりと焼き付き記憶として残ります。それらの絵画を見て、それがどのようなことを意味するのかのような背景で画かれたものか、神話と聖書の物語をある程度理解しているという良

ある程度理解しているという良分分かるようになり、聖書を読むことも絵画を鑑賞することも楽しくなります。これから海外旅行をする時、その情景を把握することも容易ではありません。ここで、私が聖書を楽しむ一

の教育を進めております。毎日の勉学の中にはさまざまな疑問、問題が生ずることは当たり前。それらを解決するためにはどのような方法が適切なのか自身で調べ研究し、そして教員とディスカッションするという、このような能動的な姿勢を貫いています。問題解決型の姿勢は、学生生活、日常生活においても、また、社会で求められる最も必要な姿勢であります。ひとり一人の学生に対しては、担任制、いわゆるチューター制を導入しており、学生からのさまざまな相談はもとより教員から積極的に学生にアプローチしております。

海外研修、短期留学が継続しており、それぞれ単位が取得できます。さて、昨今の大学を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。その状況によっては大学の淘汰もあると報道されています。弘前学院大学は、2007年に財団法人大学基準協会から大学評価を受けて大学基準認証を頂きました。すなわち、大学としての教育・研究・大学運営・大学としての環境整備などについて客観的に評価されます。簡単に言うと、大学の質が問われていることとなります。私どもの大学は、高い評価を受け、ポスターや大学案内にその認証マークが印刷されています。その認証期間は2011年までで、新たに更新しなければなりませんし、現在、その更新のための作業が進んでおります。これまで以上に教育・研究・大学運営の質を高めるために教職員一同励んでおります。新入生の皆さんそしてご家族の皆さま、どうぞ、弘前学院大学は公的に認証された機関であり、ここで学びかつ学生生活を送ることが出来ることに胸を張り誇りを持ってください。

本多庸一とキリスト教 番外編三

ある婦人宣教師のあゆみーオットーさんのアルバムより

学校法人弘前学院

理事長 阿保 邦弘



一八九五(明治二十八年)年から四年間、私立弘前女学校の教師・福音事業および婦人伝道者監督として、弘前に赴任し、精力的に宣教活動を続けながら、女子の社会的地位の向上を図り、津軽の近代化の一翼を担ったアリス・オットー

この協会と弘前女学校との関係は深く、校長を派遣してもらおう

約に基づいて一八八六年に弘前女学校は開校し、以来校長、幼稚園長を含む二十五名余の教師をむかえている。

その時マズイリ氏が学校に寄贈された手製の祖母についてのアルバムには、アリス・オットーの略歴と共に私たちが初めて目にする彼女の写真があった。またおよそ百年余にわたり、本校ではすでに失われていた貴重な全校写真や

その他バイブルクラスや日曜学校など弘前教会を中心とする、当時の彼女と関わりがあった多くの人たちの写真が載っていた。私たちはこれを「オットーさんのアルバム」と名付け、その一部を二〇〇六年発行の「弘前学院百二十年史」で紹介した。

二〇〇三年にバトン・ルージュにあるマズイリ家を訪ねた時、これらのオリジナルの写真が大切に

銀行に保管されているのを知って感銘を受けた。その時マズイリ氏が祖母の伝記を書く計画がある事を知り、私は弘前の写真館で撮った人物を調べてお手伝いする事を約束したが、調べているうちに、この長い年月の中に埋もれていたアリス・オットーとその家族の事を多くの人に紹介したいと思い、このたび「ある婦人宣教師のあゆみ」と題して百余の写真と共に彼女の足跡をたどった。

アリス・オットーは一八六六年、ミズイリ州アデア郡スローン岬の近くで六人兄弟のひとりとして生まれた。十八才の時に回心し、ミ



Alice Mary O'Leary, Missionary and Teacher in Japan, 1866-1895



2010(平成22)年4月 入学式宣誓

岩木山をこよなく愛したアリス・オットーの日本への想いは、今脈々と子孫に受け継がれている。



吉岡利忠学長、科学研究費(科研費)

補助金を交付される

2010(平成22)年度の科研費配分額(競争的資金)の通達があり、吉岡学長は、日本学術振興会の基盤研究A(2,000万円以上、5,000万円以下)の申請額の種類で交付の通知があった。研究課題名は、「骨格筋機能を維持向上させる骨格筋再構築ネットワークの解明とスポーツ科学への応用」であり4年間にわたり交付され、直接経費(人件費を含む直接的な研究費)および間接経費(研究遂行のための事務的経費)を含めた総額がおおよそ5,005万円に上る。吉岡学長は、4年前にも基盤研究Aの交付を受けており(総額4,459万円)、継続して獲得したことになる。

科研費は文部科学省が交付を行う種目および日本学術振興会が行うものがあり、前者には、科学研究費(特別推進研究、若手研究A、Bなど)、特別研究促進費などの種目があり、後者には、科学研究費(基盤研究S、A、BおよびC)、研究成果公開促進費などがある。全国の国公立大学、短大、研究機関の研究者、教員が申請するが、厳しい審査が行われるのでその採択率は極めて低く私立大学では15%程度であり、学長の研究費の獲得は快挙そのものである。

本年度の弘前学院大学の新規採択および継続分は合計6件であり、間接経費543万円を含め、2,353万円の配分額となる。昨年度の競争的獲得補助金は、青森県内の私立大学で第2位

であり、本年度は一昨年度と同様に第1位。東北6県においてもその獲得金額は上位にランクされている。なお、本年度で交付が終了する採択者は、基盤研究Aで文学部の福俣良教授、若手研究Bで社会学部の本郷亮講師および小川幸裕講師である。

談話室

お気に入りの風景

英語・英米文学科 准教授 吉永 直子

なんとなく慌ただしく過ぎていく日々。そんな中にあつても、花や木や山のある風景を眺めていると穏やかな気持ちになれる。まわりには、そんな風景について思いをめぐらしてみたい。

さくらの花を眺めるのはやはり好きで、公園のさくらはいうまでもなくすこい。ただ、その時期の個人的な都合で弘前のさくらの満開を逃すことが多くとも残念に思う。だが、ここにはそれにつづく楽しみがある。そう、りんごの花

ある。白い花びらをいっぱいつけたりんごの木は格別である。そしてその木の群れが、青空とほんの少し白い岩木山を背景に見えるとき幸せな気分になる。

りんごの木の花の楽しみは、さらにつづく。やがてその木々はみどりいっばいになり、ゆつくりと時間をかけて濃い色や薄い色の実をつけるようになる。みどりの葉におおわれた枝にたくさんま



写真 佐藤幸正先生撮影

い赤い実をつけた木。それが、いくつもの季節をまたいでみえる。ほんの数年前の学生生活。だが、そのわずかなあいだに成長していく姿をみると、本当にうれしく思う。かけがえない風景である。

研究紹介⑩

精神科での患者と看護師の対立とは

看護学部 助手 菅原 大輔



「精神科」という言葉を聞くと、今でも危険、怖い、話が出来ないなどネガティブな感情が先行し、どのようにして関わるべきか悩む方もいると思います。当大学でも精神科実習に行く前の学生の意見を聞くと、やはり過剰に意識してしまい萎縮する学生もいます。しかし、実際に精神科病棟に入ると

看護学部 助手 菅原 大輔

んや、集中して作業に取り組む患者さんなどイメージとは違った光景が目に見えてきます。実習が終る頃には最初に感じていた緊張はなく、患者さんへ楽しく関わっている学生を見ることができるとして開かれた環境になりつつあると感じています。

しかしながら、精神科病棟では患者さんからの暴言や暴力行為に看護師がさらされるのが少なからずあり、インシデントレポートなどに報告されています。そして、その出来事がトラウマとなり、患者さん

への対応が当たり障りのない関わりになることや、精神科での勤務を断念するなど看護師の仕事に多大な影響を及ぼしていることも事実です。私は、そのような場面に遭遇する時は患者さんと看護師とのケアをめぐる「対立」があるのではないかと考えていました。その対立は多種多様な場面が確認されますが、看護師のアプローチも同様に多様なことが確認されます。例えば、患者さんが服薬を拒絶したときに看護師は、薬を拒否した理由をじっくり傾聴する場合があります。医師の指示だからとやや強引に服薬を促す場合もあります。また、他の看護師に対応を変えてもらうことも考えられます。このような様々なアプローチの違いには、それぞれの看護師によって患者さんと対立した場面の受け止め方の違いが反映されているように感じます。そこで、対立し

た場面をどのように捉え、行動に移したのか、その内容を記述式アンケートやインタビューを通して、対立を回避しさらには暴力への発展を阻止することにつながる方策を検討しています。

精神科看護実践では患者さんとの対立や暴言・暴力行為などのインシデントやアクシデントが多く存在するため、最悪の事態に至る前に回避する、また、事態が悪化する方向に進展することを避けるアプローチが必要不可欠ではないかと考えています。今後の課題として対立場面の広がり、対立場面における多様な看護アプローチを照らし合わせ、対立を回避できる患者・看護師関係とは何か、また、対立を助長させる要因や暴力行為に移行する境界は何かを明らかにして精神科看護実践に寄与していく必要があると感じています。

地域総合文化研究所

活動報告

地域総合文化研究所 主事 藤岡 真之

昨年度は太宰治、今宮一の生涯百年ということもあり、「郷土作家シリーズ」と銘打ち、津軽に縁の深い作家を取り上げた4回の講演会を開催しました。

第一回講演会は、「太宰治『津軽』を中心に」というテーマで弘

前医療福祉大学准教授・斎藤三千政氏により開催されました。「津軽」の魅力が執筆当時の社会状況を交えて語られました。

第二回講演会は、「山修司素顔を語る」というテーマで元寺山修司夫人、プロデューサー・九條今日子氏、北奥

「今宮一 時代と文学」というテーマで陸羯南会会長、青森県郷土作家研究会代表理事・館田勝弘氏による講演と、館田和子氏、コール・コモード女性合唱団によって、官一の言葉にメロディーをつけた曲が演奏されました。

講演では福士幸次郎との出会い、津島修治との関係、官一が編集していた同人誌『わらはど』などが取り上げられました。

第四回講演会は、「生涯一三三年葛西善蔵」というテーマで青森県近代文学館主事・竹浪直人氏により開催されました。

善蔵の作品を読み解きながら彼の文学的テーマが「喪失」であること、そしてこのテーマには善蔵の生い立ちが影響を与えていることなどが示されました。

各講演会の内容は、当研究所発行の『地域学』八巻に掲載されています。



第2回講演会 講演者 九條今日子氏

劇団天井敷での活動、映画『田園に死す』の恐山での撮影、寺山修司、父寺山八郎と弘前との関係など、これまであまり知られることのない寺山修司の一面が明らかになりました。

本年度の活動は現在、考古学、医療、地方自治に関する講演会、シンポジウムの企画を進めているところです。

「英語英米文学会講演会」について

英語・英米文学科 教授 佐藤 幸正

英語英米文学会では、毎年内外から著名な学者をお招きして、講演会を開催しております。この講演会は本学の学生・教職員は勿論のこと、地域の皆さんにも開放しております。

二〇一〇年度の講演会は、元東北学院大学教授で文学博士の鈴木瑠璃子先生に声をかけておりましたが、先生は喜んでこの依頼を引き受け下さり、本学で講演することを楽しみにしておりました。

四月二十三日当日、先生は二一八

番教室で「ワーズワス周辺の女流作家達」と題し、長年に渡る研究成果を語って下さいました。それによると、ワーズワスの妹ドロシーのことや、特に当時のイギリス文壇を牛耳っていたジョアナ・ベイリの影響とか、当時は飛ぶ鳥を落とす勢いだったのに、その後文学史から姿を消したフェリシア・ヘモンズとの関係などが、講演の主な内容でした。

ワーズワスに影響を与えた詩人としては、ロバート・バーンズ

がよく知られていますが、ジョアナ・ベイリとか、フェリシア・ヘモンズなどの女流詩人とワーズワスとの関係についての講演は、大変示唆に富んでいて、啓蒙的なものでした。イギリスロマン派の詩人ワーズワスを取り巻く世界が、また一段と膨らんで、立体的に理解できる内容の話でした。

今回もまた、外部からの視聴者を受け、たくさんの方々が参加して、盛況裡に終えることができました。このことを会員の皆様にご報告致します。



父母と教職員の会

総会・懇談会報告

父母と教職員の会定例総会が五月二十二日(土)、本学において開催され、次の議案が審議の後、決定されました。

○第一号議案

二〇〇九(平成二十一年)度活動報告及び二〇〇九(平成二十一年)年度収支決算報告について

○第二号議案

二〇一〇(平成二十二年)年度活動計画(案)及び二〇一〇(平成二十二年)年度収支予算案について

また、役員については次のとおり決定されております。

- 会長 佐藤 和博(本学教授)
 副会長 前田 晴茂
 幹事 相馬 玲子
 幹事 佐々木正晴(本学教授)
 顧問 吉岡 利忠(学長)

総会終了後、懇談会が開催され



弘前学院大学父母と教職員の会総会・懇談会

ました。出席者より国家試験の合格率や就職に関する質問が多く寄せられ、関心の高さがうかがえました。

2009(平成21)年度弘前学院大学父母と教職員の会収支決算書

(期間:平成21年4月1日から平成22年3月31日) (単位:円)

項目	予算額	決算額	差額	備考
前年度繰越金	1,201,615	1,201,615	0	
入会金	567,000	570,000	3,000	3,000×190名(学生)
会費	5,774,400	5,819,400	45,000	7,200×739.5名(学生) (年間)495,000(教職員69名)
雑収入	100	717	617	預金利息
合計	7,543,115	7,591,732	48,617	

(期間:平成22年4月1日から平成23年3月31日) (単位:円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減
前年度繰越金	1,201,615	974,190	△ 227,425
入会金	567,000	666,000	99,000
会費	5,774,400	5,868,000	93,600
雑収入	100	100	0
合計	7,543,115	7,508,290	△ 34,825

(収入合計金額) 7,591,732-(支出合計金額) 6,617,542=(残額) 974,190(次年度繰越金)

上記監査の結果、収支について相違ないことを認めます。平成22年5月12日

監事 相馬 玲子
 監事 佐々木正晴

2010(平成22)年度弘前学院大学父母と教職員の会収支予算書

(期間:平成22年4月1日から平成23年3月31日) (単位:円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減
前年度繰越金	1,201,615	974,190	△ 227,425
入会金	567,000	666,000	99,000
会費	5,774,400	5,868,000	93,600
雑収入	100	100	0
合計	7,543,115	7,508,290	△ 34,825

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減
運営費	305,000	305,000	0
1 事務費	45,000	50,000	5,000
2 通信費	150,000	150,000	0
3 旅費交通	15,000	15,000	0
4 会議費	35,000	30,000	△ 5,000
5 慶弔費	60,000	60,000	0
活動費	700,000	700,000	0
1 広報費	300,000	300,000	0
2 父母懇談会費	400,000	400,000	0
活動協力費	4,400,000	4,400,000	0
1 父母・教職員研修会費	250,000	250,000	0
2 教員研修補助費	300,000	300,000	0
3 育英費補助費	200,000	200,000	0
4 宗教部補助費	550,000	550,000	0
5 学生課補助費	100,000	100,000	0
6 学友会補助費	300,000	300,000	0
7 就職開拓補助費	800,000	800,000	0
8 図書補助費	700,000	700,000	0
9 学生募集活動補助費	500,000	500,000	0
10 研究所補助費	400,000	400,000	0
11 国際交流活動補助費	300,000	300,000	0
特別補助費	2,138,115	2,103,290	△ 34,825
1 特別スポーツ補助費	100,000	100,000	0
2 学友会補助費	300,000	250,000	△ 50,000
3 設備補助費	850,000	900,000	△ 50,000
4 予備費	888,115	853,290	△ 34,825
合計	7,543,115	7,508,290	△ 34,825

2010年度

看護学部就職セミナー 病院合同説明会開催報告

平成二十二年度学内就職セミナー病院合同説明会が、去る四月二十四日(土)午後一時より、本学体育館において開催されました。学部開設以来、今回で三回目の開催となるもので、学生が病院の看護責任者や就職担当者から、看護現場の生の声を聞くことにより、このあとに控えている就職活動に役立たせるものであります。

当日は、看護学部の四年生五十六名、三年生二十七名合計八十三名の学生が参加しました。また、病院側からは、県内十病院、関東を中心とする県外病院三十三病院の計四十三病院の参加でした。学長の開会の挨拶の後、学生は病院関係者が待機している各ブースへ進み、担当者から丁寧な説明を受け、終了時間の午後四時まで約三時間たっぷりを使い、多い学生で七箇所を回るなど、各ブースを熱心に回っていたのが印象的でした。

参加した学生からは「興味のある施設の情報が見られた」「就職

派な成果を上げたものと思われる。学生には、この成果を、ぜひ今後の就職活動に結びつけて欲しいと願っています。

最後に、本セミナー開催のために、大変お忙しいところご出席いただきました病院関係者の方々とお世話いただきました看護学部の先生や職員の皆様に衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(就職課)

今回のセミナーは、広い体育館で開催したこと、病院側の採用意欲が非常に高いことおよび学生の関心が高かったことなどから大変立

具体的意識できた「就職活動の第一歩としての取り組みができた」「施設代表者と会って、施設の雰囲気を知ることができた」などと勉強になった点や感想が寄せられた。また、病院側からは、学生の印象を、「礼儀正しい」「素直」「真面目」「熱心・積極的」「笑顔・挨拶がよい」など立派な評価を頂き、「是非また参加したい」とのことでした。



看護学部就職セミナー会場

2010年度 特待生

- 1年 吉田さくら (盛岡第二高校)
- 2年 小山内 萌(聖愛高校)
- 3年 西塚 苑子 (弘前南高校)
- 4年 高橋 里佳 (宮城第二高校)

- 英語・英米文学科 1年 前田 彩花(鶴田高校)
- 日本語・日本文学科 2年 田中 舞 (小千谷高校)
- 英語・英米文学科 3年 山本 康太(弘前高校)
- 英語・英米文学科 4年 竹越 華子(木造高校)
- 社会福祉学科 1年 向中野 永 (青森南高校)
- 2年 佐藤 知美(水沢高校)
- 3年 駒込 香織 (不来方高校)
- 4年 工藤 純輝 (弘前南高校)



人事異動

新任紹介

- 英語・英米文学科 准教授 楊 尚真
- 講師 エドワード・フォーサイス
- 日本語・日本文学科 講師 生島 美和
- 講師 須川 公央
- 講師 川村 泰子

看護学部

- 就職課長 小嶋 定雄
- 学務課長 藤田 重依
- 学務課 秋田 苑実
- 学務課 竹内由可子
- 就職課・キャリアサポーター 三上 智子
- 総務課 須藤 啓介

退職

- 英語・英米文学科 准教授 タッド・レオナルド
- 准教授 関 直規

看護学部

- 准教授 走井 洋一
- 教授 村田 千代
- 助手 小野寺久美子
- 就職課長 福井 修
- 学生課 齋藤ひろみ
- 図書館 増田 雄貴
- 学長秘書 一戸佳代子
- 総務課 下山 藩十

転出

- 弘前学院法人本部へ 学務課より 今井 香織
- 入試広報センターへ 弘前学院法人本部より 小山内千夏

異動

- 学務課・文芸部事務 (入試広報センター兼務) 坂本 光子
- 就職課より 藤本小夜子
- 学務課(総務課兼務)より 藤本小夜子
- 学生課(看護学部)より 藤本小夜子
- 就職課(看護学部)より 藤本小夜子
- 図書館(総務課より) 葛西 秀隆
- 宗教部へ 入試広報センター兼務 大坊 幹子

平成22年度 学部・学科長及び主任紹介

- 文学部長 教授 畠山 篤
- 英語・英米文学科長 教授 佐藤 和博
- 日本語・日本文学科長 教授 井上 諭一
- 学務主任 教授 野沢 勝夫
- 学生主任 教授 顧 偉良
- 社会福祉学部長 教授 顧 偉良

- 学長 吉岡 利忠
- 社会福祉学科長・学務主任 准教授 八戸 宏
- 学生主任 准教授 北村 繁
- 看護学部長 教授 神都 博
- 看護学部長 教授 木村 紀美
- 学務主任 教授 三上 聖治
- 学生主任 教授 櫛引美代子

通過点

文学部 英語・英米文学科 一年 関根 宏晃
(福島県志高高校卒)



弘前学院 大学への進学。私が一度も踏み入れた事のない見知らぬ土地での大学生活は、不安に満ち溢れていた。

最初に立ち上がったのは、方言という名の言葉の壁。福島出身の私は、津軽弁を全く知らない。周りの会話を聴いていても、話の内容が解らない私は、なかなか輪に入ることができなかった。しかし、時間が経つにつれ、周りと徐々に打ち解けていくことができた。今ではもう、津軽弁を例文付きで教えてくれる親切な友達がいる。どんなことでも話せる友達がいる。共に笑い合

自分磨き

文学部 日本語・日本文学科 一年 佐藤 早苗
(福島成蹊高校卒)



弘前学院 大学に入ってから二カ月が過ぎました。私は、福島を離れて一人暮らしをしています。最初は大学生活や一人暮らしをうまくやっていたかどうかが不安でした。しかし、四月にあるリトリートを通して友達ができ、不安な気持ちもだんだん和らいできました。

また、サークルにも入り、楽しく大学生活を過ごしています。高校までは五分授業だったので、九十分授業はとて長く、ほとんどの授業が口頭で説明するため、自分で書き取りながらノートを作らなければ

える友達がいる。慣れない土地での一人暮らし。家事全般を一人でこなさなければならぬ。もともと一人暮らしに慣れていたので、毎日がとても充実している。料理する事は好きだが、決して得意ではない。しかし、日々の生活の中で、料理の腕を上げていければと思う。

大学にも慣れ、充実した日々を送っている今、何かいま一つ物足りない気がする。高校時代、毎日部活で汗を流し、仲間と共に勝利を分かち合い敗北に涙を流していた。その時間がすばり抜けている。私はあるサークルに入っている。優しい先輩や、気の合う仲間がいるそのサークルで、高校時代のような、いや、それ

現に向けてまだまだ未熟な自分を超えて、もっともつと自分を成長させるために、様々な事を学び、また、この大学で出会った友達と支え合って、四年間という大学生活が有意義なものとなるように、勉強とサークルを両立させながら大学生活を過ごしたいです。

以上の価値のある時間を過ごして生きたい。

私がこの大学に入学し、多くの友と出会い、教授陣の質の高い講義を受けている。これらは全て、何かの縁があったことだと思ふ。足を踏み入れたことのない場所だからこそ、新しい発見や出会いがあるのだと思ふ。

これからこの大学で学ぶ四年間、卒業してから決して後悔のないような、そして、私が心の底から充実していたと言えるようなそんな四年間にしたい。そのために、私が今できることを全力でこなしていこうと思う。高校時代までと違って、自由に使える時間が多

自由に使える時間が多今だからこそ、できることもあるのだと思う。卒業までに、津軽弁を完璧に習得できればと思う。

当たり前前の事

社会福祉学部 一年 水木 健仁
(東奥義塾高校卒)



いつの間にか、もう六月に入った。気づけば、入学してからもう2カ月たつ。思い返せば、大学入学直後は希望や不安で胸がいっぱいだった。これから友達ができるのだろうか。

不安で胸がいっぱいだった。これから友達ができるのだろうか。大学でうまくやっていたらいいの

話には変わるが、私はこんな話を聞いた事がある。ある障がい

をもつ子供の母親が、ある時バスに親子で乗った。すると、その親子の席の向かいに別の親子が座った。やがて、向かいの子供が騒ぎ出した。すると、その子の母親が、「静かにしなさい。あんまりうるさくすると、あの子みたいになっちゃうよ。」と指をさして言ったという。そんな事を言われた母親は教会に行き、泣きながら「お願いです。今日だけは泣かせてください。」と言ったと言う。その母親は、どんなに悔しかったろう。どんなに辛かったろう。この話を聞いて皆さんに何か感じ取ってもらえれば幸いです。悲しい事に人々の中には、認知症のお年寄りや障がいを持った方を見ると「どうせ、この人たちは何を言ってもダメな人たちだ。」と思う人も多く聞く。私は、そんな時こそ大学で学ぶ正しい知識や、人を思いやる道徳が必要になってくると思ふ。私は、4年間大学で学ぶ事になるが、それを生きた学問にしていきたいと思ふ。その為には「ありがとう」や「おかげさま」などの、人間の暮らしに役立つ当たり前前の心が、専門的な知識の前にも求められると思う。私は、そんな当たり前前のことを、当たり前前にできる当たり前前の人に、大学生活を通してなれたらと思ふ。人は人に出会い人になつて入学後、習った。良き友先生に会い、私はその当たり前前を目指して順調なスタートが切れたと感じている。

新入生の夢と希望

大学生となって

看護学部 一年 吉田さくら
(盛岡第二高等学校卒)



四月にこの弘前学院 大学に入ってから、もう二カ月が経ちます。私は地元の盛岡から離れ、全てが新しい環境の中で大学生活を始めました。そのこともあって、大学に入学してすぐは様々な不安を抱えていました。

大学では自分で学びたい科目を選択しなければなりませんし、連絡事項等は自分で確認しなければなりません。一つ一つの行動に自己責任がついて回り、自由とは反面、戸惑うこともあり

が速い上に内容が濃く、慣れるまでに苦労しましたが、相談できる友人や先輩、家族、また質問に快く応じてくださる先生方に支えられてきました。なにより自分が興味のある分野を学ぶことができるので、毎時間の講義は新鮮で、看護における専門知識を学ぶことはとても楽しいです。

この二カ月で学んだことは、入学して何度も耳にした「大学とは自分から学習する場」という言葉です。自分ではできると思っていました。自分ではできると思っていると難しく、高校までいかに与えられる側にいたのかを痛感させられました。特に専門科目で

いを持った方を見ると「どうせ、この人たちは何を言ってもダメな人たちだ。」と思う人も多く聞く。私は、そんな時こそ大学で学ぶ正しい知識や、人を思いやる道徳が必要になってくると思ふ。私は、4年間大学で学ぶ事になるが、それを生きた学問にしていきたいと思ふ。その為には「ありがとう」や「おかげさま」などの、人間の暮らしに役立つ当たり前前の心が、専門的な知識の前にも求められると思う。私は、そんな当たり前前のことを、当たり前前にできる当たり前前の人に、大学生活を通してなれたらと思ふ。人は人に出会い人になつて入学後、習った。良き友先生に会い、私はその当たり前前を目指して順調なスタートが切れたと感じている。

国際交流委員会

国際交流委員会



も魅力あるものとなっている。また、今年度の試みとして「日本映画」ポップアート」そして「マンガ」についての特別授業を設けた。これら授業に対する研修生の反応が頗る良かった点をみると、アメリカの若者達が現代日本のカルチャーに特に惹かれていることが分かる。

その他、彼女は木曜の午前に行われている礼拝に二度参加したり、英語・英米文学科主催の「新入生歓迎会」で在学生と触れ合う機会をもった。週末は例年通り、ホームステイを経験し、各家庭の料理、会話を小旅行を楽しんだ。最後に、ご協力を惜しまなかったホストファミリー、ボランティア学生そして内外の講師の方々に感謝を申し上げたい。

文学部准教授 鎌田 学
(国際交流委員会)



姉妹校提携をしているウィスコンシン大学から四名の研修生が先月本学を訪れ、約一ヶ月間日本語および日本文化について学んだ。参加したのは、ベネデッタ・キヤネストラ、カービー・ギブソン、サラ・ワナメイカーそしてシユア・ヴェーの女子学生。日本語運用能力については初級者から中級者までばらつきがあるものの、すべての研修生が日本文化に強い関心を持っている点は共通であった。

本学プログラムは、午前中の日本語の授業のほか、午後には「華道」「茶道」「書道」「弓道」「着物」「日本舞踊」「凧製作」「そば打ち」などのアクティビティ、「禅林街探訪」「白神山地ビクターセンター」および「弘前脳卒中センター」の見学などを用意し、とて



看護学部棟の桜が可憐に開花(片桐先生撮影)